

〈気づき・学び・学習する〉

体育館編



【車いす体験】



【ボッチャ体験】



ゴール

【車いすラグビー】

ゴール

苫小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター

後援 苫小牧市 ・ 苫小牧市教育委員会

はじめに

現在、学校では「総合的な学習の時間」などを通して、子どもたちが学習に対して主体的・創造的に取り組む姿勢や命の大切さなどの生きる力の育成が期待され、また「コミュニティ・スクール」で掲げている地域とともにある学校づくりの推進が図られています。

地域では、人と人、人と社会がつながり、様々な課題を「我が事」としてとらえ、地域で暮らす一人ひとりが役割をもち、お互いに支え合えることができるネットワークづくりが求められています。

苫小牧市社会福祉協議会では、「ともに支え合い みんなの笑顔が見えるまちづくり」を基本理念とし、次代を担う子ども達が新たな気づきや豊かな感性と人間性を持って、多様な他者との共生社会を築いていく力や共に生きる力を育めるように、また先生方が総合的な学習（福祉の学習）を企画する上で役立てていただけるように「福祉の学習の手引き」を作成させていただきました。

ぜひ、ご活用いただければ幸いです。

『ふくし（福祉）』って何だろう？

「福祉」とは「**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ」とも言われており、福祉という文字は、「福」と「祉」のどちらにも「しあわせ」という意味があります。つまり、みんなの幸せということなのです。

どのようなことを幸せだと感じるのかは、一人ひとり違います。そのため、すべての人が幸せに感じるためには、他人の幸せを尊重し、一緒に支え合いながら暮らしていくことが大切です。



福祉の学習のイメージ



1. 種まき（課題の設定）

「福祉って何だろう？」というような疑問など、子どもたちの自由な発想から課題を見つける。



2. 成長する（主体的に調べ学習をする）

課題に応じて、本やインターネットで調べたり、また体験学習を通して感じたことなどをまとめる。



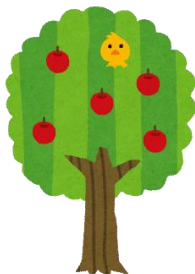
3. 葉をつける （調べたものを共有し、興味や関心を深める）

これまでの学習の振り返りや情報の整理・分析を行い、疑問点や課題の解決を図る。



4. 実る（行動・さらなる取組）

これまでの学習の全体をまとめ、多くの方に知ってもらい、そこで見つけた新しい課題を1の『種まき』につなげていく。



【福祉の学習の目的】

障がいの有無や年齢に関わらず、全ての人が福祉の対象であり、幸福で安定した生活の達成を目指すこととされています。

そのために福祉に対して感心を持ってもらい、今の自分たちに何ができるのかを考える事の大切さを知ってもらうことを、この学習の目的として実施します。

実施の流れ

「申込書（兼事前打合せシート）」に学校名・担当教諭名・連絡先・対象学年・参加予定人数・授業の目的・事前打合せ日時・確認事項などを記入していただき、FAX または下記のメールアドレスにて送付して下さい。

内容については事例などを参考にしながら、希望する授業内容が決まりましたらご連絡いただき、担当より打合せの日程を確認し、お伺いして授業内容・授業時間を決定していきます。

プログラムを見ても内容が決まらない場合は、お気軽にご連絡下さい。

- ① 「申込書（兼打合せシート）」に、必要事項を記入の上、FAX またはメールにて返信ください。受理しだい、事前打合せの日程を、ご相談の上決定します。（学習予定日の1か月前までをめどに、申し込み下さい。）
- ② 事前打合せの実施。
学習に対しての目標、学習の実施場所など確認させていただきます。
- ③ 講師の日程調整・道具の調整
講師の日程が確保できるか、必要な道具が確保できるのかななどを調整し、必要があればお伺いし最終打合せをします。
- ④ プログラムの実施
- ⑤ プログラム完了の報告（プログラム参加者の感想などを実施後にいただければ、協力者およびスタッフで今後の参考にさせていただきます。）

◆お問い合わせ先

社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 ボランティアセンター
〒053-0021 苫小牧市若草町3丁目3番8号 苫小牧市民活動センター
電話 0144-84-6481 FAX 0144-34-8141
Mail volucen@tomakomai-shakyo.or.jp 月～金 AM9:00～PM5:00

活動プログラム①

車いすラグビー日本代表池崎選手 講話・車いすラグビー体験 90分

「池崎大輔オフィシャルパートナー」



【目 的】

講話・車いすラグビー体験を通じ、パラスポーツの魅力を伝える。

スポーツも勉強も『楽しい』『面白い』だけでは駄目。

楽な道を選んでも成長しない。

自分自身を追い込む厳しさがあって、終わった後の一瞬の喜びに繋がる。

不安があるから努力し、努力してこそ自信になることを学びます。



池崎選手が日本代表として、パリ、パラリンピック金メダルを獲得するまでの苦労話をお話しします。(30分)



【プロフィール】

出生地 函館市

車いすラグビー (3.0 クラス)

2010 年 日本代表入り

3.0 クラスベストプレイヤー賞受賞

パリ パラリンピック金メダリスト

車いすラグビー体験 (60分)

車いすラグビー用の車いすの構造を説明します。

車いすの乗り方、操作の仕方、注意事項を説明します。

車いすラグビーのルールを説明します。

4人対4人の車いすラグビーミニゲームを実際に体験します。

※

福祉の学習日程の調整をさせていただきます。

昨年と同じく3日間の予定で考えておりますが、決定しましたら学校にお知らせ致します。

池崎選手講話30分・車いすラグビー60分体育館(90分)

車いすラグビーのミニゲームは、4人対4人で行うのでチーム分けをお願いします

講 師

使用する物品:ワイヤレスマイク

生徒 約50名

(講話終了後)

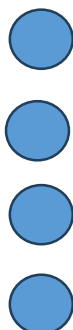
1 組

(4人組を作っておいて下さい)

2 組

(4人組を作っておいて下さい)

コート側を向いて座って下さい



※ 車いすラグビーミニゲームは、2班に分かれる(60分)

活動プログラム②

高齢者福祉

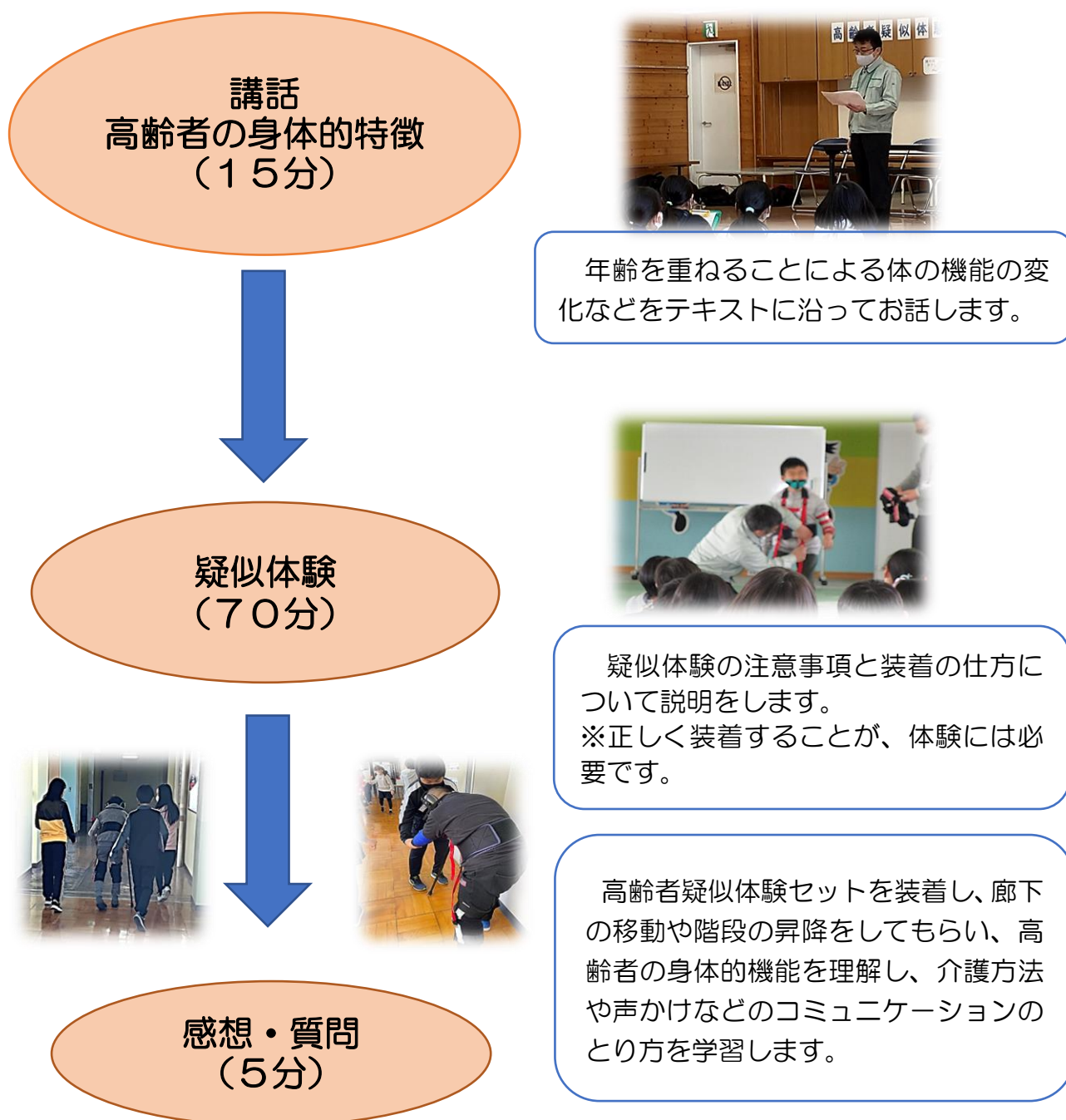
テーマ	内 容	学習素材	講 師
老いるとは？	年齢を重ねていくことで変化する身体や心の変化について知ることにより、これからどのように過ごし、どのような支えがあると良いのかを考えよう。	• 疑似体験 日常生活を疑似体験することにより、加齢による身体的な変化を知る。	• 社協職員 



高齢者福祉プログラム

(2時限(90分)授業) 事例 ①

※時間配分については、講師や学校授業の都合により、90分以内での変更は可能です。



※時間はあくまで目安となっております。内容により若干時間の前後がありますので、ご注意ください。

活動プログラム③

肢体不自由

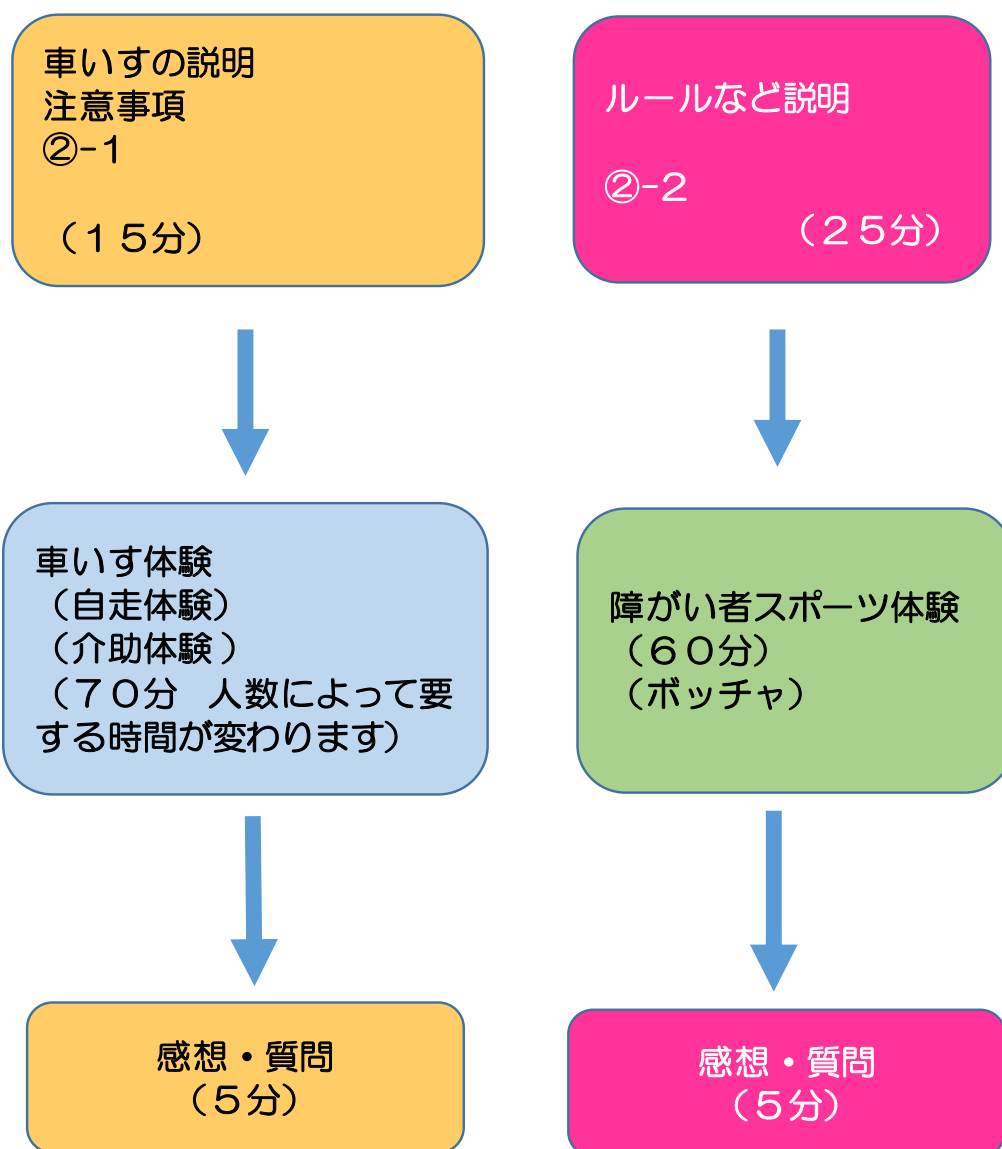
テーマ	内 容	学習素材	講 師
①暮らしや生きがいについて	障がいの有無や高齢に関わらず、困りごとや自分でできることがたくさんあります。 体験を通して、「できないからかわいそう」「できないから大変だ」ではなく、どのような工夫や支えがあると暮らしていけるのかを考える。 今の自分ができるちょっとした工夫や生活について考える。	・車いす体験 車いすがどのような構造となっているのか。操作方法や注意点・留意点を学び、実際に操作し自走や介助をしながら移動してみる。 また、段差や障害者トイレやエレベーターなどのバリアフリーについて学ぶ。	・社協職員  
		・パラスポーツ体験 体育館で「ボッチャ体験」を通じて障がいの有無に関係なく、パラスポーツを通して技術力・集中力だけでなく様々なスポーツがあることを学ぶ。	・社協職員 
②ともに生きる		・生活をアシストする機器の紹介 どのような種類があり、どのように使うのかを紹介し、症状や身体の可動域の範囲によってアシストする用途を学ぶ。 	・株式会社マルベリーさわやかセンター 苫小牧 

※状況により講話の講師が派遣できない場合もございますので、ご相談ください。

肢体不自由プログラム（2時限（90分）授業）

事 例 ②

※時間の配分は、講師や学校授業の都合により、90分以内での変更は可能です。



車いす体験・ボッチャ体験については、準備のため開始前15分ぐらい時間をいただきます。ご了承ください。

車いす体験（講話・体験）90分

【目 的】

車いす体験を通し、不便さや危険を知ること、日常生活の中で自分たちがどのような工夫があるとよいのかを考えていきます。

車いす体験についての説明（車いすの構造など）、注意事項をお話しします。



車いすを実際に自分で操作します。



2人1組で介助する体験をし、車いすに乗っている側から見た景色や坂の上り下りなどを体験し、車いすを介助する側はどのように声をかけ、乗っている方を不安にさせないように操作することが必要か、体験を通して学びます。



車いす体験実施する際は、開始前 15 分ほど準備時間をいただきます。

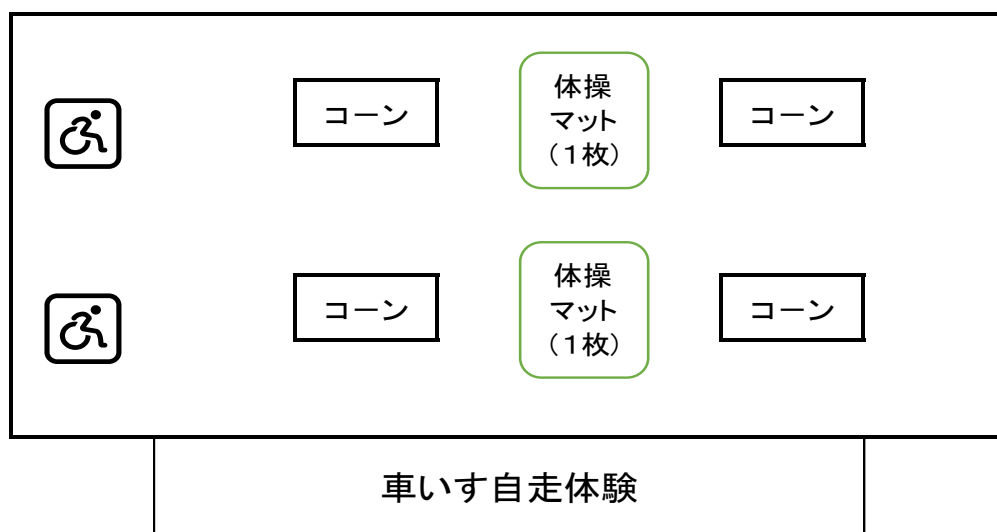
小学校 車いす体験 体育館(90分)実例①

自走体験と介助体験を行います。

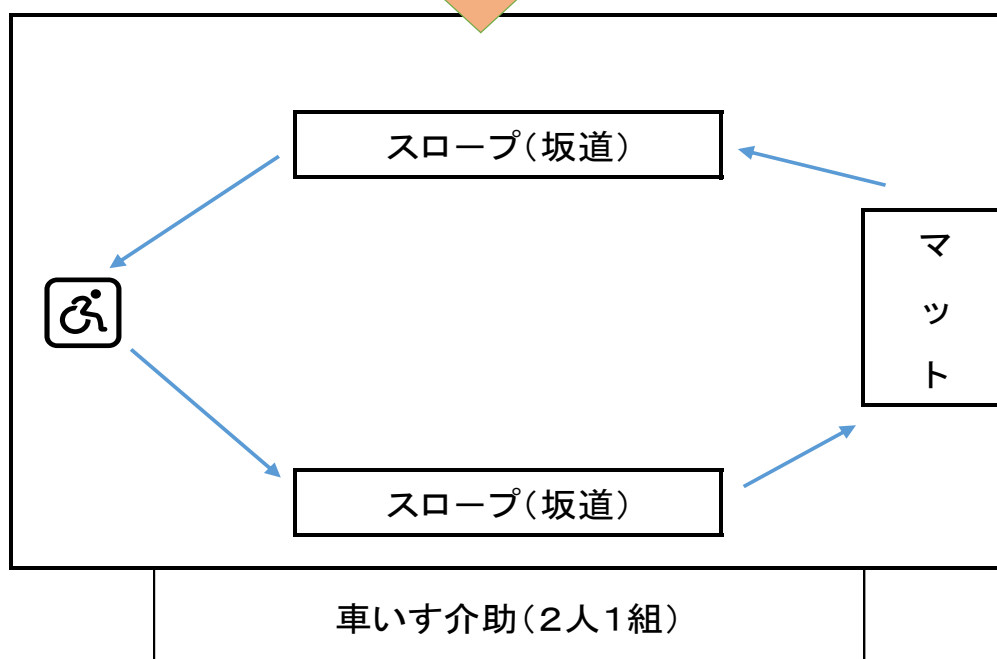
講 師(ワイヤレスマイク1本)

生 徒

① 自走体験



② 介助体験



◎学校で準備(マイク1本・マット3枚・三角コーン10本)

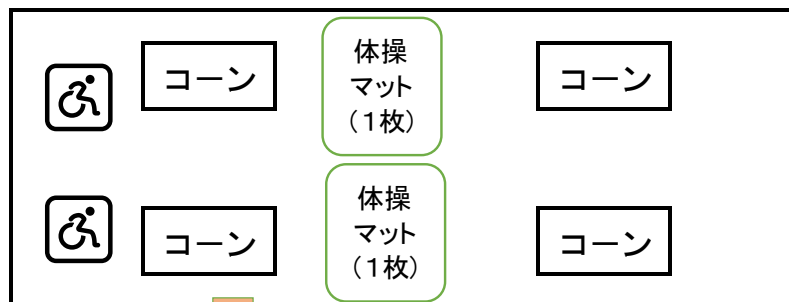
小学校 車いす体験 体育館(90分)実例②

2クラスを3グループに分かれて(自走・介助・福祉用具)交代で行います。

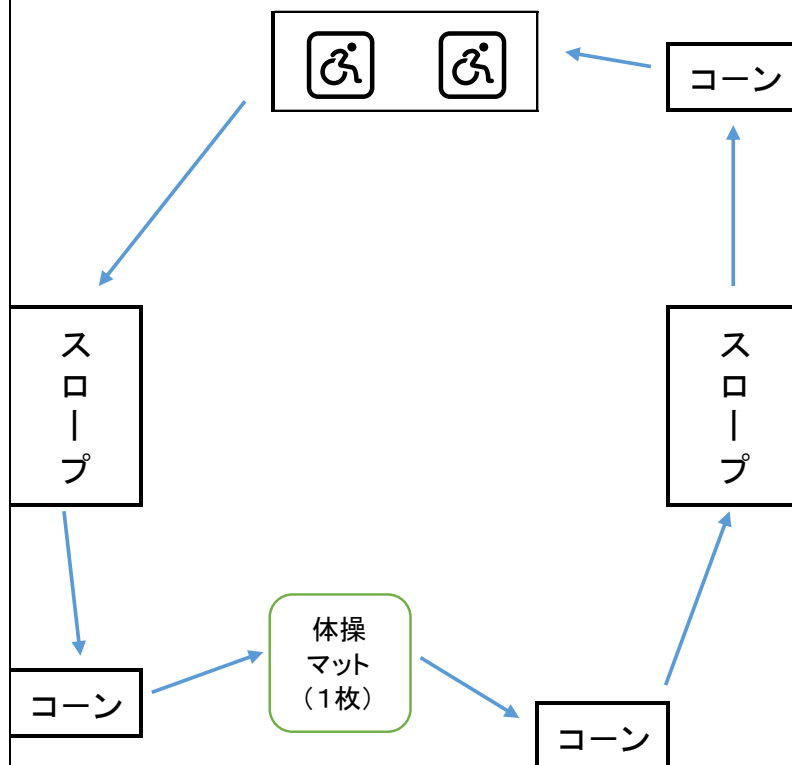
講 師(ワイヤレスマイク1本)

生徒2クラス70名

① 自走体験



② 介助体験



③ マルベリー (福祉用具展示)

※ 福祉用具については、民間会社の都合によります。

※ 体験は、講話15分・各体験25分×3ブースになります。

障がい者スポーツ講話・ボッチャ体験 90分

【目 的】

ボッチャは1984年にパラリンピックの正式種目として行われています。

「ボッチャ体験」を通じて障がいの有無に関係なく、実行するための技術力・集中力が求められるスポーツであることを学びます。

昨年度は、障がい者のスポーツ（パラスポーツ）についてお話をしました。

昨年度と同様に30分程度でお話しとルール説明をし、その後、ボッチャを60分体験していただきます。



ボッチャは会場の広さにもよりますが、最大2組まで用意できますので、多少人数が多くても対応は可能です。

ボッチャ体験は、コート設営のため15分ぐらいの準備時間が必要です。

肢体不自由講話30分・ボッチャ60分体育館(90分)実例

ボッチャは3対3の6人制で行うのでチーム分けをお願いします。

講 師(ワイヤレスマイク・机2)

スクリーン

プロジェクター

生徒 2クラス70名

ボッチャ①

ボッチャ②

※ ボッチャは、35人×2クラスに分かれる(60分)

1クラスの場合は1コートになります

活動プログラム④

聴覚障がい

テーマ	内 容	学習素材	講 師
①聴覚障がいとは？	聴覚障がいの方とのコミュニケーションは障がいの種類、程度、障害が生じた時期、教育歴など一人ひとり異なるため、多様なコミュニケーションが必要である。	・講話 聴覚障がいは、見た目では分かりにくい障がいの一つです。 実際に今までどのように過ごされたのか、また、どのような協力があると良いのかを講話を通して考える。	・苫小牧市障がい福祉課
②暮らしや生きがいについて	障がいがあっても、日常生活において困らないように工夫や努力をしてできることを考える。	・手話体験 手話でのあいさつや名前など簡単な手話やジェスチャーの方法を学ぶ。	
③ともに生きる	自分でできるちょっとしたお手伝いや配慮を考える。	・手話以外のコミュニケーションについて 筆談、口話による方法や生活をアシストする種々の機器を知る。	



聴覚障がいプログラム（２時限（９０分）授業）

事 例 ④

※時間の配分は、講師や学校の授業の都合により、90分以内での内容変更は可能です。

日頃の実生活について、
聴覚障がい者の方の講話
(40分)



質 問 (5分)



手話体験
手話以外のコミュニケーション
(45分)

聴覚障がい者講話（講話・手話体験） 90分

【目 的】

当事者の日常生活の中で、たくさんできることがあることを知りながら、難しいところは、どのような工夫があるとよいのかを相手の立場に立って考えます。



基本は、90分授業となります。
前半の45分は講話（質問を含む）を行います。
後半は学年によって異なりますが、ジェスチャークイズや実際に手話を使ったあいさつなどを学び、簡単なコミュニケーションの取り方を体験します。

授業対応の予定として、火～金曜日の3・4時限目であれば対応可能です。



活動プログラム⑤

視覚障がい

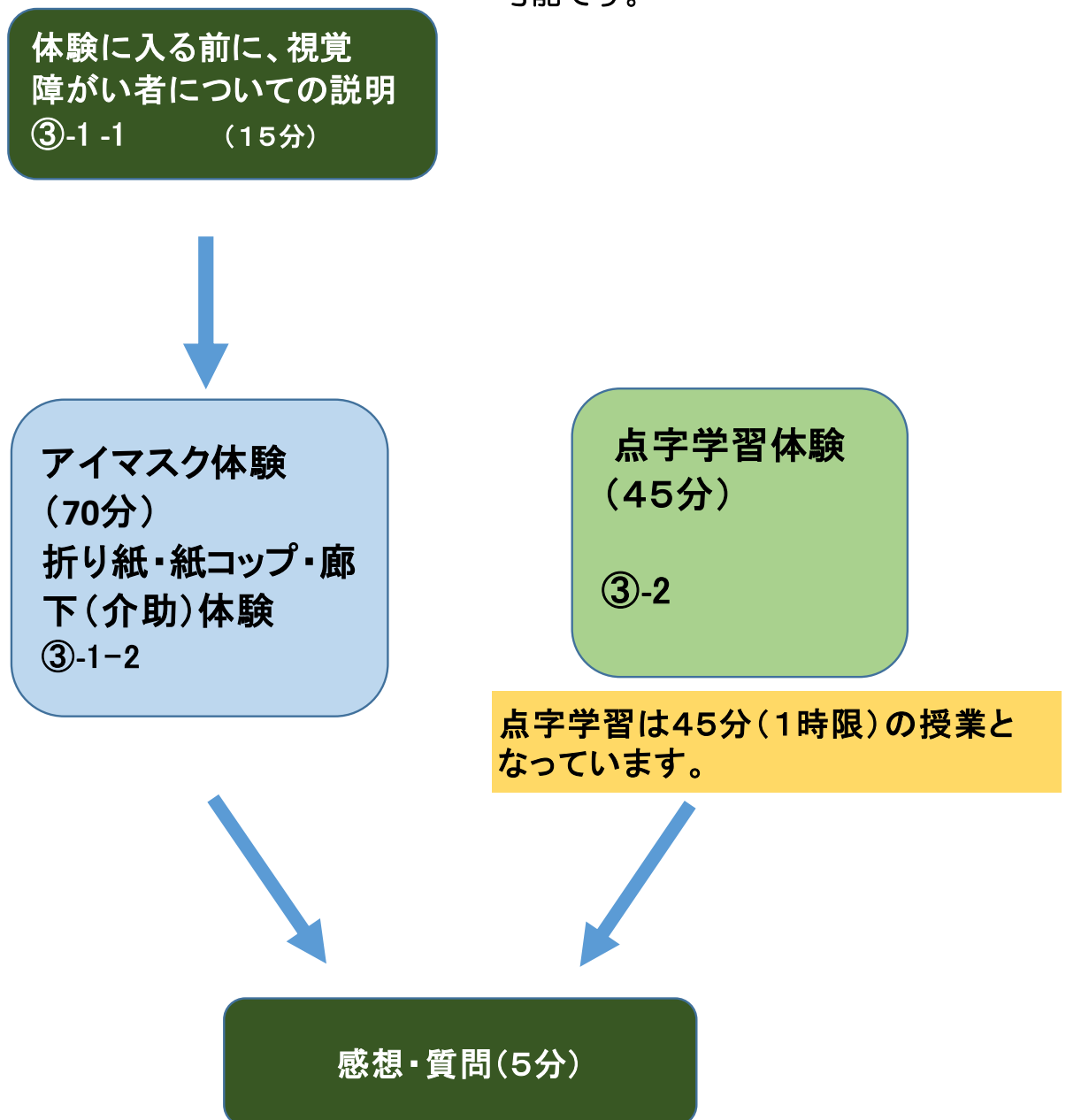
テーマ	内 容	学習素材	講 師
①視覚障がいとは？	障がいのある方の講話やアイマスク・点字などの体験を通して視覚障がいについて理解をする。	・アイマスク体験 実際にアイマスクを装着しながら歩き、失ってしまった情報ではなく、視覚以外の情報を活用する体験を行う。	・社協職員 
②暮らしや生きがいについて	視覚障がいにより、できないことに焦点をあてず、できることに焦点を置く。	・点字学習について 視覚障がいのある方に対して、点字を使って単語や文書を表現することがあります。	・苫小牧市点訳赤十字奉仕団
③ともに生きる	自分でできるちょっとしたお手伝いや配慮を考える。	体験を通して、点の打ち方や打つ時のルールなど初歩的な技術を学ぶ。	



視覚障がいプログラム（2時限（90分）授業）

事例 ③

※時間の配分は、講師や学校の授業の都合により、90分以内での内容変更は可能です。



アイマスク体験（紙コップ・折り紙・廊下、階段） 90分

【目 的】

アイマスク体験を通し、視覚以外の感覚である聴覚や嗅覚などのいろいろな感覚を使って生活していることを知り、日常生活の中でできることがたくさんあることも知りながら、自分たちがどのような工夫があるとよいのかを考えていきます。



アイマスクをしている方は、クロックポジション（アナログ時計の文字盤を基準にして物の置いている場所）を判断しています。
例）何時の方向に〇〇がある。



アイマスクをしながら、折り紙を折ります。ある程度折ることはでき、何もできないわけではありません。



2人1組のペアで、一人がアイマスクを装着しながら廊下や階段の昇降の体験をしていただき、もう一人がアイマスクをしている方の介助をします。

障がいにより活動や参加の制約があるから、かわいそうではなく、相手の立場に立って、どのように工夫をすれば生活ができるのかを考えながら行動することが大切です。

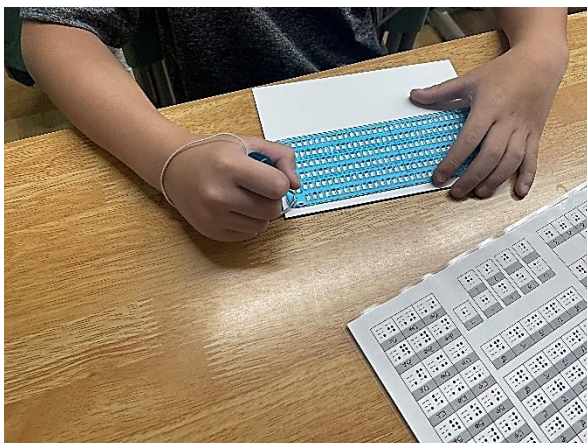
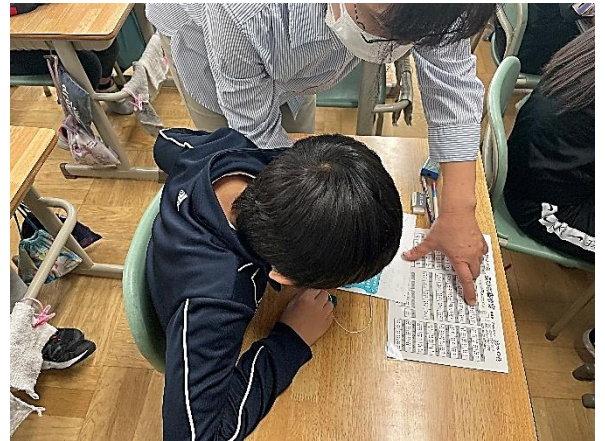
点字体験（講師：苫小牧市点訳赤十字奉仕団）

【内 容】

苫小牧市点訳赤十字奉仕団の方に講師をしていただき、45分の体験を行います。

主な内容として昨年度は点字の本（ハリーポッターの小説）を生徒に見てもらい、その後、実際に点字器を使用して自分の名前や好きな物、簡単な文書を打っていただきました。

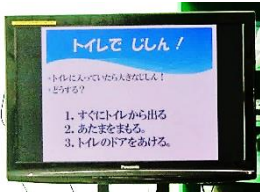
日程の調整があります（月～木曜日の3・4時限目のみ対応可能）ので、あらかじめ実施する予定日を2～3日あげてください。



活動プログラム⑥

災害支援 ボランティア

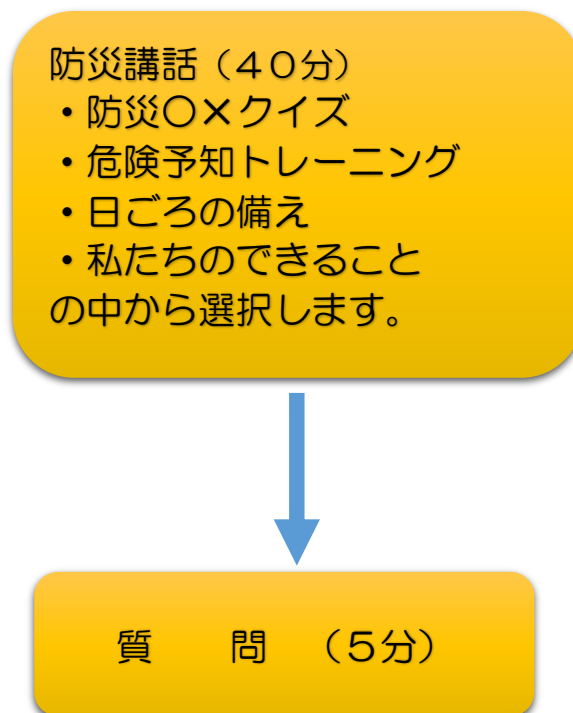


テーマ	内 容	学習素材	講 師
①自分のいのちは自分で守る	危険を回避して自分や大切な家族のいのちを守るために必要な知識を学びます。	災害講話 必要な知識や主体的な行動へ導いていくプログラム（防災〇×クイズ）です。	社協職員
②できていますか？日頃のそなえ 	災害が起きたらどんなことに困るのか。そのためには、どのような備えがあると良いのかを学びます。	- 危険予知トレーニング 災害時に予想される危険な状況をシミュレーションし、どのような行動をとるべきかを考えます。 - 日頃のそなえ 持ち出し袋って何？本当に必要なものって何？ 家の中の安全とは？被害を最小限に抑えるために必要な知識を学ぶ。	 
③私たちにできること ～大切なものを守るために 	日常の中で「幸せで楽しい」とは？災害が起これば、一変してしまう。 そこからどのように生きるかを考えます。	日常の中で幸せとはどういうことか？ 大災害により一変した状況を自分のこととして想像し、状況を受け止め、そこからどのように生きるべきかを考えます。	

災害支援ボランティアプログラム

(1時限(45分)授業) 事例 ⑤

※講師や学校授業の都合により、時間配分の変更については、調整します。



※講座の内容により学校側で準備していただく物(プロジェクターなど)があります。その際はあらかじめご相談させていただきますのでお願いいたします。

盲導犬講話（講話・体験） 90分

【内 容】

昨年度は、北海道盲導犬協会（札幌市）より講師として来ていただき、講話・代表者が体験を行いました。内容として前半の45分、講師が盲導犬についての講話をし、後半に代表の方がアイマスクを装着して、盲導犬の体験をしました。

（注意事項）

このプログラムは、北海道保健福祉部福祉局地域福祉課福祉人材グループのご協力をいただき、無料で実施しています。

そのため、実施日から2か月前までに事前の予約が必要となっています。

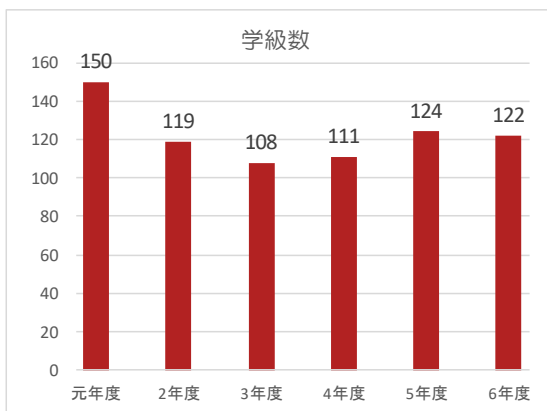
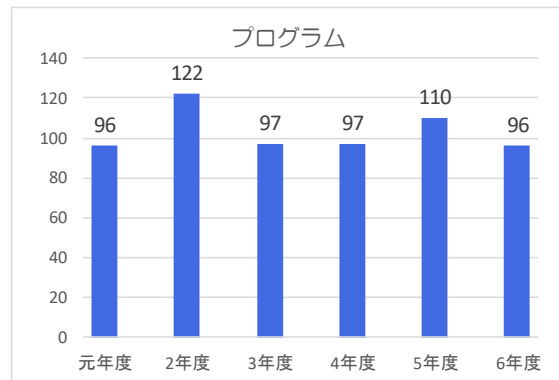
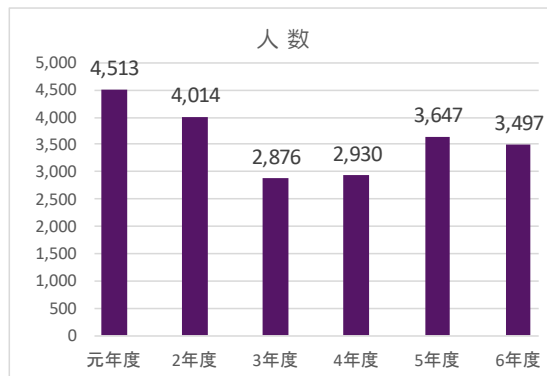
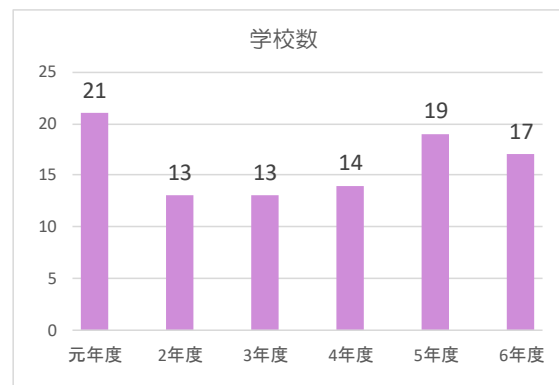
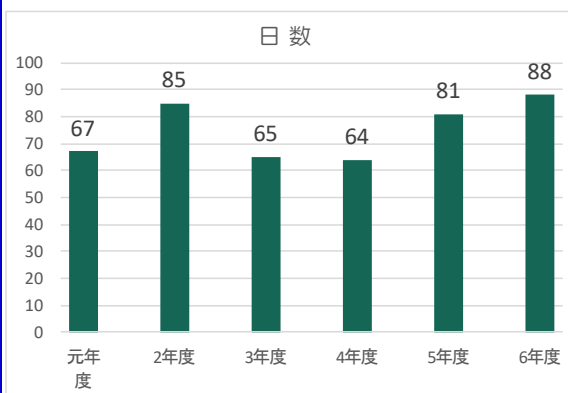
事前の打ち合わせ等については依頼者（学校）と道の福祉人材グループで行っていただくことになります。また、講習会終了後、実施報告書及びアンケート（教職員及び児童生徒）の提出が必要となります。ご希望があれば人材グループへ、ご連絡しますのでよろしくお願いいたします。



※ 冬期間は、交通事情により出来なくなります。

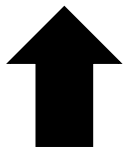
福祉の学習 令和6年度実施報告

	日数	学校数	人数	プログラム	学級数
元年度	67	21	4,513	96	150
2年度	85	13	4,014	122	119
3年度	65	13	2,876	97	108
4年度	64	14	2,930	97	111
5年度	81	19	3,647	110	124
6年度	88	17	3,497	96	122
増 減	7	▲ 2	▲ 150	▲ 14	▲ 2



プログラム内容	回 数
高齢者疑似体験	18
肢体不自由講話	
ポッチャ体験	8
アイマスク体験	21
点字学習	19
聴覚障がい者手話体験	15
車いすラグビー体験	3
防災講話	1
盲導犬講話	
車いす体験	11
合 計	96

苫小牧市社会福祉協議会



苫小牧市ボランティアセンター行 (FAX : 34-8141)



福祉の学習申込書 (兼事前打合せシート)

年 月 日 ()

学校名	学校		担当の先生	先生
連絡先	TEL :	FAX :	メール :	
対象者	全校生徒 学 年 (年生)	クラス数	人数(内訳)	

○希望するプログラム

--

○授業の目的 ((例) 先生たちが考える授業の狙い、子どもたちに伝えてほしい内容)

--

○確認事項

実施希望日時 (予定・決定・調整中)

※講師との日程調整が必要となりますので、複数の日数の提示をお願いします。

①日 時 : 年 月 日 () : ~ :

②日 時 : 年 月 日 () : ~ :

③日 時 : 年 月 日 () : ~ :

会 場 : 学校 (教室・体育館・その他 ())

駐車場 : 有 ・ 無

車椅子トイレ : 有 ・ 無

備 考 :

Eメール volucen@tomakomai-shakyo.or.jp